

令和元年度 第2回小松市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和元年 11 月 27 日 (水)
開会 午後 4 時 10 分 閉会 午後 5 時 10 分

2 会 場 小松市役所 3 階 3 B 応接室

3 出席者 小松市長 和田 慎司 (議長)

小松市教育委員会

教 育 長 石黒 和彦
委 員 北村 嘉章
委 員 吉原 慎吾
委 員 中惣 恭子
委 員 勝木 克子

(事務局関係)

総合政策部長	吉田 和広
総合政策部 国際&経営政策課長	藤井 勝司
総合政策部 国際&経営政策課主査	井出 称子
総合政策部 国際&経営政策課主査	中村 宜嗣
教育委員会事務局 教育次長	吉田 均
教育委員会事務局 シニアマネージャー	道端 祐一郎
教育委員会事務局 未来の教育課長	中谷 光恵
教育委員会事務局 教育庶務課長	東谷 勝美
教育委員会事務局 教育庶務課専門官	唐木 和也
教育委員会事務局 学校教育課長	廣田 恵子
教育委員会事務局 青少年育成課長	松野 真弓

4 討議事項 ・小松市教育大綱について

5 会議の経過及び発言

○開 会

○和田市長あいさつ

・総合教育会議という仕組みができて4年経つが、行政全体で教育を考える仕組みは良いことだ。残念ともチャンスとも言えるのかもしれないが、SNSを含め技術が進歩しすぎて教育が追い付いていない状況がある。しかし教育というのは紆余曲折を経ながらより良い方向を求めていくものであるので、皆様のご審議をよろしく願いたい。

○討議事項

- ・小松市教育大綱について

〈議長〉

- ・議題について説明をお願いします。

〈廣田学校教育課長（パワーポイント資料に基づき説明）〉

【五つの基本理念】

- ・現行の教育大綱・学びの道しるべについて見直しを行うための素案について審議いただきたい。
- ・一つ目の理念として「豊かな生き方を実現するための知識技能」を掲げ、答えを自分自身で導き出し、体験を通して学んだ知識・技能を実生活に活用する力をはぐくむ、とした。
- ・二つ目として、様々な社会問題が起き規範意識が重要になる中で、「人として正しく判断する心」を掲げ、真心を持って人とかかわったり、礼儀を重んじたり、よりよく生きるための思考力と判断力をはぐくむ、とした。
- ・三つ目は、自分の夢や目標を達成するには強い意志が必要であり、それを支える身体も大切ということで、「すこやかでたくましい身体」として、強い意志とチャレンジ精神を支える活力ある身体をはぐくむ、とした。
- ・四つ目は、ふるさと小松には古くから素晴らしい文化遺産があり、それを大切にしていくなめには、他者と協働する力が必要となることから「協働し共に創る社会」とし、残された文化遺産や伝統を大切に、地域や社会のために、他者と協働しながらより良い社会を創っていく力をはぐくむ、とした。
- ・五つ目は、「未来を切り拓いていく志」とし、グローバルな社会を生きる子どもたちが、国籍や文化の違いを理解し、グローバルな視野で未来を切り拓いていく力をはぐくむ、とした。
- ・小松市の人づくりで最も大切にしているのは「智仁勇 あすのこまつを創る人」であることから、この五つを基本理念とした。

【四つの方針】

- ・この基本理念を達成するための方針を4つ定めた。国の教育振興基本計画にも掲げられている。
- ・一つ目は、「夢と志を持ち、可能性に挑戦する力を育成する」。この方針に沿った目標
 - (1) 必要な資質・能力の確実な育成
 - (2) 豊かな心の育成
 - (3) 健やかな身体の育成とした。
- ・二つ目は、「社会の持続的な発展を牽引する多様な力を育成する」。この方針に従った目標を
 - (1) グローバルに活躍する人材の育成
 - (2) スポーツ・文化等多様な分野の人材の育成とした。
- ・三つ目は、「生涯を通して学び続け、活躍できる人材を育成する」とし、目標を

- (1) 質の高い科学教育の推進
- (2) SDG s の推進
- (3) 生涯読書の推進
- (4) ふるさとの歴史や文化の伝承 とした。
- ・ 四つ目は、「学びを支える教育の基盤を整備する」とし、これはハード面になるが
 - (1) 安心安全で質の高い教育研究環境の整備・充実
 - (2) 児童生徒の安全を確保
 - (3) 効果的な学習のための環境整備
 - (4) 家庭や地域の教育力の向上
 - (5) 大学等教育機関との連携の充実 とした。
- ・ 学びの道しるべの理念を実現するために、これらの方針を立て、NEXT10年ビジョンと関連付けて目標を立てている。

〈議長〉

教育長、教育次長より補足はあるか。

〈石黒教育長〉

- ・ このような素案を作った背景は、小松市の課題として、また全国的な問題として、精神的に強くない子が増えている。そのような子をどうするかを考えたとき、生きることの素晴らしさ、生きる情熱や意欲を大事にしてほしいという思いがある。また、「Wisdom」つまり智仁勇の「智」だが、これまでのようにただ知識を獲得するだけではなく、生活に役立つ知識・技能を獲得し、さらに小松市ではもう少し進んで、その知識・技能を社会のためにどう役立てていくか、という思いを「Wisdom」の中に込めさせていただいた。
- ・ 次にモラル、つまり「道徳、豊かな心」という意味だが、それに一つ上乘せして、社会性という意味の「徳」のある人間に育ててほしい、と考える。明確に「こんな人に育ててほしい」という思いを文字にした。

〈勝木委員〉

- ・ 私も、学校の中で知識だけを教えて終わるのではなく、社会で活躍できる人に育ててほしいと思う。そのために必要なことは、コミュニケーション能力や、人とどうつながるか、どう他人を思いやって自分を理解してもらおうか、そういったことができる人に育ててほしいと思っている。

〈中惣委員〉

- ・ 今示していただいた五つの基本理念は大変分かりやすい。義務教育では基礎学力を定着させることも大切だが、人格を育てるとても大切な9年間であり、将来力強く社会に貢献できる人材育成のために、この基本理念は大切だと思う。また、こういうところが勉強だけを教える学習塾とは違うところなので、先生たちがバランスよく子どもたちに教えて行けるよう、みなさんに指導していただきたいと思う。

〈北村委員〉

- ・この素案に賛成する。残念なのは、学校の先生方が目先の学力だけを優先して、このような教育の理念が伝わっていない現状があるので、今回の大綱ができたらず先生に共有していただいて、授業力を向上させてほしい。今回の案は大変良くできていると思うが、イラストや補足事項が多いので大変分かりやすいものになっているNEXT10年ビジョンのように、大綱もそういったものが不足しないよう、また数値目標も明確に出したものにしてほしい。
- ・また、文科省の方向性を勘案しなければならないと思うが、小松の実態や特色を出したものにしてほしい。
- ・将来、子供たちが学んだことをどう生かすかが大切になる。社会に出ても、意欲、忍耐力がないため離職が多く、3年間で70%が離職しているという。社会性が不足していたり、団体行動ができない、意欲が少ない、出世したくない、責任を持ちたくない若者が増えている。このような状況の中で、社会が必要とする人材育成、世界に通用するグローバルな人材育成がこれから本当に大切になってくる。
- ・主体的に学ぶ「自学」、学び合う「活学」の中で、有用性、社会に世界に通用するグローバルな視点、地域に愛着と誇りを持てるような取り組み、共生社会を実現できるような学校教育が必要な時代になってきた。
- ・そのため、この新しい大綱をまず先生に教えていただいて、そして明確な目標を持って教育に臨んでほしい。そして、大綱は堅いのもではなく、柔らかいものにしていただければと思う。

〈吉原委員〉

- ・指導要領も変わるので、小松独自の目標を掲げたビジョンに見直すのは必要なことだと思う。企業側の目線で言うと、最も必要な人材は、能力の高低に関わらず、素直な人、思いやりを持ち、チームワークをうまく作っていける人。また、何がやりたいかがはっきりしていて、目標や志を持っている人。そして、それをやり遂げるためにどんなことも乗り越えられる人。この素案には、そういった目標が組み込まれているのでよいと思う。
- ・また、子どもだけに教えるのではなく、学校の先生方にも理解してもらえらる場を積極的に設けて行ってほしい。学校現場において具体的に何をやれば目標を達成できるのか、先生方に指導してほしい。

〈議長〉

- ・生涯教育を考えるときに、まず大人が変わらないといけない。教育は、教育委員会だけの問題ではないというのが、この総合教育会議の一番の狙いである。子どもの生育環境が原因となり、この目標に児童生徒全体の50%くらいしかついて来られないかもしれない。そういった中で、テーマは間違っていないが、言葉遣いも含めて「やさしさ」を醸し出していくべきだと思う。
- ・教育に完成形はない、時代とともに変わっていく「ING」型であり、ゴールも動い

ていく。それを、我々大人も先生も地域も求めていくべき。学力試験の結果が求められる先生方の辛さも理解できるが、だからこそこの学びの道しるべはもう少し心広くやさしくあるべきではないか。悩める子供、大人は多いが、それが社会の多重構造化にもつながるので大事なことである。そのような中、学びの道しるべに高い目標を持たせるのも大事だが、救いを求めることも大切。これが、令和の時代の教育のあるべき方向性ではないかと思っている。

〈石黒教育長〉

- ・「学びの道しるべ」は、特に学校と学校の教員に対して示すことが大切であり、子ども達に示すものは学校ごとに別にある。道しるべは、市の教育の根本はどうあるべきかという方向性を示したものであることをご理解いただきたい。

〈議長〉

- ・そうだとすると、前述の「残りの50%」の人たちのことも思いやって作るのが令和の時代の道しるべではないか。

〈石黒教育長〉

- ・例えば「Wisdom(知恵)」には個人差があり、豊かな生き方のため、学校では個人個人に応じた知識・技能を身につけていくが、小松市の学校教育では、できるだけたくさんの知識・技能を身に付ける努力をしていきたいと思う。義務教育では、人格の完成、そして社会で生きていける知識、技能をつけることが大切である。もちろん各学校ではそれぞれの子どもに応じた教育を行ってきており、これからもそうやっていく。

〈議長〉

- ・一人ひとりのことを考えて教育しているからこそ、不登校も減っているし、芸術やスポーツでよい成績を上げている。しかし、そうではない子どもたちにも光を当てる考え方がよいと思う。

〈中惣委員〉

- ・学校への計画訪問を行っている中で、現場ではそれぞれの子どもに応じたきめ細やかなご指導をされているなど感じている。その「残りの50%」について、そういう環境の子どもたちもいるということ、先生を通じて子供たちにも教えていくということも含まれるのか。

〈廣田学校教育課長〉

- ・学校教育の根本になるのは、人としてよりよく生きる「徳」の心を育てること。子どもたちが自分で考えて自分で方向性を決めていく、それに対して大人がより良い方向に導くものであると考えるので、中惣委員のおっしゃることは含まれていると考える。

〈中惣委員〉

- ・学校を訪問すると、教室内だけではなく廊下などでも、いろいろなお子さんたちが温かく一緒に仲間として学んでいる。そういった学びの場を拝見すると、小松市の先生方の思いが込められているなど感じる。

〈勝木委員〉

- ・「残りの50%」とはどのようなこの子をいうのか分からないが、先日、ケーキを3等分することができない子供がいると本で読んだ。少し知的に遅れている子が、学校教育の中で、きちんと先生の言っていることが理解できないために、うまく人間関係が築けなかったりするケースがあるということだった。特別支援学級に入れば手厚い支援を受けられるが、普通の子たちと一緒に授業をすると、学力的についていけなくなってしまうということだった。
- ・また別の本では、学力が低い子は経済的に恵まれていない子が多いとも書いてあったが、学校教育ではそこまで対策するのは難しいと感じた。
- ・少人数の学校の場合は、先生から手厚くサポートしてもらっているなど感じるが、大規模な学校では、教室の隅々まで先生方の目が届いているのかな、と感じることもある。それぞれの学校の事情があるのでどうすることもできないかもしれないが、では教育の現場ではどうしたらよいのか、難しいと感じる。

〈吉原委員〉

- ・求められるもののハードルが非常に高いので、果たして学校の先生方にどこまで理解していただけるのか分からないが、やはり言葉だけで終わらないようにしていただきたいと思う。結局どんな方針を決めても学校現場ではやっていることは同じ、ということになっては意味がない。

〈北村委員〉

- ・先生方は社会の実態をあまり分かっていない。以前は中学を出たら自立するのが当たり前だったが、今は高校を出ても自立できない。その理由は家庭力、地域力が低下していることもあるが、知識のみに偏って教えているからではないか。「共生」や「社会に生きる知恵」をもっと教育していかなければならないということ、まず先生方に分かっていただきたい。
- ・また、大学との連携だけではなく、小・中・高校・大学での連携が効果的。家庭や地域での教育もそうだが、連携が大事。みんなで共有しながら子供たちを育てていく、そういう観点を持って、社会に通用するグローバルな視点を持つ子を育てていっていただきたいと願う。

〈議長〉

- ・商工会議所の会頭らと話す機会があり、企業側は若い人がすぐに辞めていくと嘆いていたが、企業内での研修をしっかりとやっていくのが日本の企業の強さだと思う。NHKの朝ドラの中の話ではあるが、高卒、中卒の子が目標やハングリー精神をもって一

生懸命頑張っている。その中で、やさしい母親としっかり者の姉が家庭を支えている。今回の大綱にも、ぜひこういった、母親のような温かみ、やさしさというものを織り込んでほしいと切に思う。

〈北村委員〉

- ・今年、神社での就職希望者が少ない中、私の神社へは希望者が4人も来た。私は希望者が職場見学に来た際には全部本音で話すようにしている。その上で、納得した人が入社し、その後はきちんと研修もする。きちんと教える、ということが採用する企業の責任だと思う。

〈議長〉

- ・安宅住吉さんの「難関突破」は、生活にも、学業にも、スポーツにも、音楽にも密着している。だから応募が多いのではないか。学びの道しるべも同じで、みんなが共有し、親しみやすさを感じられる言葉遣いにしてほしい。

〈石黒教育長〉

- ・そのことも大事だが、道しるべは、目指すべき方向性を示すものであって、やさしさはその後につながってくるもの。教育は、教育基本法が基にあって、その下にいろいろつながっていることを理解していただきたい。この道しるべにも、やさしさは後につながってくるということである。

〈議長〉

- ・だからこそ、道しるべにおいて、やさしさと思いやりを感じられるようにした方がよいのではないか。厳しいものはいくらでも作れる。ついていける人には厳しいものでよいが、なかなか追いつけない人にとって、やさしいものであってほしい。これは「One for all、All for one」の精神とも言える。
- ・「智・仁・勇」の「仁」をしっかりやろうと思ってもなかなかできない家庭環境もあり、そういう子どもたちもみんな育てていこうという意味で言っている。以前は、8対2か7対3くらいだったのが、今は5対5くらいになっている感覚があり、そういう意味での残りの50%をどう引き上げるか、令和の時代に作ろうという道しるべは、やはり一番最初にやさしさがあるべきだと思う。

〈石黒教育長〉

- ・学校側が明確なゴールを知ることが重要だと考えている。市長のおっしゃることも理解できるし、確かに困っている子や心配な親もいる。そういった子をどうするかは、それぞれ具体的できめ細かな方針をもって対応していかないといけない。

〈議長〉

- ・これを是とするかどうかの議論ではなく、これからのビューティフル・ハーモニーの時代に、我々の言葉遣いや行動も含めて、考え直さなければいけないと日々思っている。

る。香港の若者たちを見ると、私たちには自由があり恵まれていると感じる。結論は出ないが、まとめに入りたい。

〈吉原委員〉

- ・これがゴール、完成形ではない。市長のご意見もお聞きしたので、今後完成させていきたい。

〈議長〉

- ・ありがとうございました。本日のテーマはここまでとしたい。では令和の時代、みんなで心豊かになるよう、よろしくをお願いします。

○閉 会